

第19回京都山城便教会

令和元年 5月 12日 (日)

第19回京都山城便教会は、向日市立勝山中学校で実施しました。参加者は14名。いつものように自己紹介して、テーマを発表。今回のテーマは「よく生きるとは」。生き方を4つに分けると、「求道」「よく生きる」「うまく生きる」「ただ生きる」に分かれると考え、「うまく生きる」はノウハウを知り、この社会をうまく生きるためにしていること、「よく生きる」は何のために生きるのかを考え社会をよりよくする生き方。よく生きていても、実はうまく生きていることになっていることは多いのではないかと。そんな投げかけをして、トイレ掃除をスタートしました。



最初に、トイレ内の掃き掃除、蛍光灯、換気扇、排水溝の掃除に取り掛かりました。蛍光灯にはカバーがあったのですが、これが埃まみれで、拭いたぞうきんはドロドロに。でも吹き上がったカバーはピカピカに。それだけで、雰囲気明るくなった感じがしました。その後は、便器に集中。トイレに向き合われてからは、無言に。一言も「無言清掃をしましょう」と言っていないのに、無言になる。やはり、志のある先生方の集まりですから、何か心に期すものがあったのでしょう。便器と向き合いながら、自分と向き合っておられる姿が印象的でした。

汚れは、便器だけではなくありません。壁もよく見ると、相当に汚れていました。「次は壁をやりましょう」と声をかけた際に、はじめて壁が非常に汚れていることに気付きました。きっと日頃はあまり気にしていないのでしょう。しかし実際に手で触ると、ざらざらして、そして少しネバっとした感触。雑巾で拭くと、明らかにきれいになっていきました。

<Before>



<After>



【参加者の感想】

- ・「よく生きる」は自分を捨て、人のために生きること。「うまく生きる」は、自分のためにしていること。常に自分を捨てていけるようにしたい。
- ・ありのままの自然体って大事だと感じた。トイレも普段のありのままの姿を表している。そのありのままをどう対処していくのか。
- ・色々なものを受け入れ、生かしていくことが必要だと感じた。その答えを追求し続けたい。
- ・とにかく汚れとの戦いであった。しかし、汚れに気付いていない自分に気付いた。
- ・今日はきれいにしきろうと思ってやっていたが、結局一人ではできないと思った。みんながいるから、やることができることに気付いた。
- ・今まで便器とこれだけ向き合う時間はなく、はじめての体験であった。いかに雑に向き合ってきたのが分かった。そして生徒に対しても、雑に向き合ってきていないか自問自答することができた。
- ・「よく生きる」は利他だと思うが、利他だと思っても、自分が見え隠れする。自利と利他が行ったり来たりしていて、「よく生きる」と「うまく生きる」も同じようになっていくと思う。
- ・当たり前のことを本気でやるのが、人間力を高めていくのだと思う。そして一生懸命やるのが楽しいと感じられる生徒になってほしいと思う。
- ・無心になりきれない自分がいる。
- ・トイレ掃除をしながら自分の親のことを思い出した。親に対してやりたいことがあるけれどもできていない。思ったことをすぐにやることも大事であると気付いた。
- ・正しいと思っても、自分がやっていることが正しいのか分からなくなり、悶々としていた。だが、限られた時間の中でトイレ掃除をすることで、何かスッキリした気持ちになった。
- ・きれいになったつもりでいたが、やり終えてもう一度見てみると、まだ不十分なことに気付いた。やってやったという感覚をなくしたい。

最後に、菅刈公園のことを話題にしました。元タイエローハットの本社があった目黒から移転をしたが、その後もずっとその公園を掃除されている鍵山秀三郎相談役と阿部豊さん。特に何かを求めるのではなく、ただやる。何かを求めているうちは「うまく生きる」なんだろう。今日、掃除をして良かったではなく、明日以降も一人で掃除を続ける。この積み重ねが生活の一部となり、知らないうちに「よく生きる」になっているのではないのでしょうか。そんな禅問答のような問いをお伝えし、会を終えました。

終了後、会場校の校長先生から、秋にもぜひやっていただきたいということで、11月24日(日)に勝山中学校で再び便教会をさせていただくことになりました。こうして協力をしていただけることに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。(小笹 大道)

